

きゅうり栽培における防虫ネット、除草シート等によるコナジラミ類侵入抑制効果の実証

農場の概要

- ・ 地域（本庄市）
- ・ 対象作物：きゅうり

導入した資材等

- ・ 防虫ネット（商品名：通るクン）
- ・ 光反射シート（商品名：タイベック400WP）

導入の目的・ねらい

化学農薬の使用量低減のため、コナジラミ類のハウス内侵入を防ぐ新規物理的防除資材の効果を実証する。



図1 試験区の様子

試験概要

(1) 実証ほ場の概要

定植日：8月2日 品種：まりん 面積：各調査区いずれも324m²
各調査区の概要は表1のとおり。

(2) 調査概要

- ・ ハウス外（1地点/区）、ハウス内（2地点/区）に黄色粘着板を設置し、コナジラミ類の誘殺数を計測。
- ・ 目視で退緑黄化病発病株を計測（10株×3地点/区）。
- ・ 温湿度計でハウス内温度を経時的に測定（1地点/区）。
- ・ ハウス入室前後の疲労度を調査（2人/区）。
- ・ 主枝摘芯期の節数と草丈から平均節間長を推定（5株/区）。

表1 各調査区の概要

	防虫ネット (目合い)	ハウス周り	
		出入口	
試験区	0.3×0.6mm 「通るクン」	○	光反射シート 除草シート* *ハウス西側のみ
慣行区	0.6×0.6mm	—	—
参考区	0.4×0.4mm	—	—

結果概要

- ・ 同じ農薬散布回数（6回）であっても、ハウス内におけるコナジラミ類誘殺数は、試験区で慣行区を大きく下回った（図2）。また、退緑黄化病の発生は見られなかった（図3）。
- ・ 発生ピーク時における出入口付近のコナジラミ類誘殺数（10/17）は、試験区（22匹/枚）で参考区（7匹/枚）より減少した。
- ・ ピーク時のハウス外のコナジラミ類誘殺数（10/17）は、光反射シート敷設区、防草シート敷設区とも、敷設しなかった区より減少した（図4）。
- ・ ハウス内平均温度（8月）について、試験区（32.1℃）は慣行区（31.4℃）より高くなった。一方、ハウス内平均湿度（8月）と主枝摘芯期の節間長は、試験区（67%、7.0cm）と慣行区（68%、7.0cm）で同程度であった。
- ・ 試験区の収量は慣行区の約1.2倍となった。

生産者コメント

- ・ コナジラミ類の侵入抑制効果を実感することができた。他のハウスでも使用していきたい。
- ・ 「通るくん」を張ったハウスは涼しく感じ、夏の高温下でも使用できると感じた。
- ・ 出入口の防虫ネットは出入りの際に邪魔に感じるが、強い効果を実感したため、設置方法を検討しつつ今後も使用したい。

問合せ先

本庄農林振興センター

電話 0495-22-3116

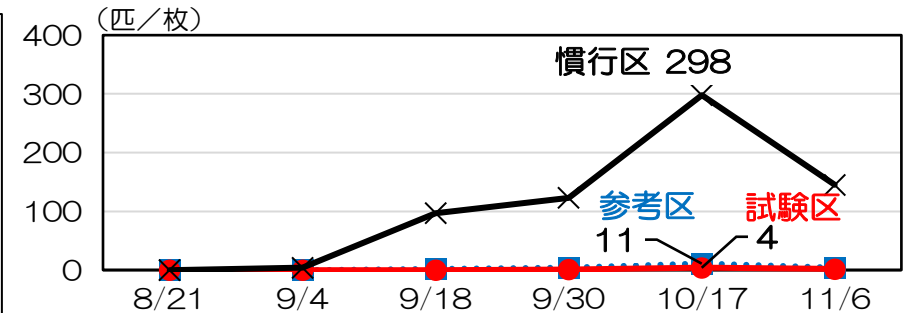


図2 ハウス内におけるコナジラミ類誘殺数



図3 ハウス内の様子

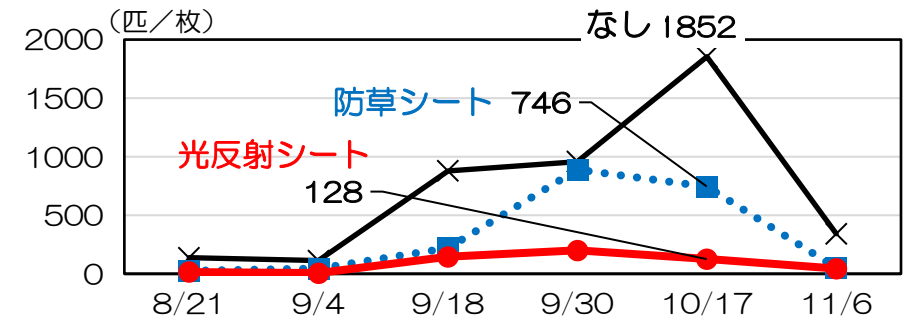


図4 ハウス外におけるコナジラミ類誘殺数